

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 京都府立嵯峨野高等学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫 _____）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒616-8226
京都府京都市右京区常盤段ノ上町 15

E-mail sagano-hs@pref.kyoto.lg.jp

Website <http://www.kyoto-be.ne.jp/sagano-hs/>

幼児児童生徒数 男子 453 名 女子 519 名 合計 972 名
幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

本校では、ESDの理念である持続可能な社会の担い手を育成するため、地域連携・海外コラボ型「京都グローバルスタディーズ（KGS）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」によるリーダー育成を推進している。

1年次のKGSⅠでは、基礎的な探究活動を行い、「課題設定・解決能力」「英語・異文化コミュニケーション能力」の基礎を築く。2年次のKGSⅡでは、「環境」と「地域」を2本の柱として、「人文科学・社会科学・自然科学」分野において、アカデミックラボで課題研究を行い、探究する力、表現する力、課題設定・解決能力、地球規模で考える力を高める。3年次のKGSⅢでは、英語による課題研究発表会－SAGANO GLOBAL PRESENTATION－を開催し、研究課題の英語による発表と質疑応答を行うことで、課題研究の深化を図る機会とする。

① 「情報の科学」（課題探究活動の基礎－ICTの活用）

4月から11月にかけて、ICT関連の技術・手法を学び、今後の課題探究学習に必要な文書作成、データ処理の方法、資料作成の方法を学習する。12月からはSDGs（持続可能な開発目標）の17の目標の内、いずれか1つについてグループで問題を発見し、課題を設定して仮説を立てることを目標とする課題探究基礎を実施。グループでまとめた内容についてクラス内で発表会を行った後、年度末には各クラスの代表による合同発表会を実施した。

② 「グローバルインタラクション」(課題探究活動の基礎—英語による論理的コミュニケーション能力の向上)

京都の大学で学ぶ外国人留学生を Teaching Assistant として活用し、授業は All English で可能な限りコミュニケーション活動の機会と時間を多くとり、英語でのプレゼンテーションやディスカッションに必要な論理的コミュニケーション能力を高めることを目指す。

③ 「アカデミックラボ」(課題探究活動と英語による実践発表)

「環境」と「地域」を柱として、「人文科学・社会科学・自然科学」分野において課題研究を行い、探究する力、表現する力、課題設定・解決力、地球規模で考える力を高める。3年次には「英語による課題研究発表会—SAGANO GLOBAL PRESENTATION」を開催し、ネイティブスピーカーを招いて課題発表と質疑応答を英語で行い、課題研究の深化を図る機会とする。

④ 「国際ワークショップ」(海外交流による異文化理解と国際的視野の育成)

海外の高校生や大学生と交流する国際ワークショップを積極的に行い、多様な考え方に触れるとともに、地球規模の視野で考える力の育成を図る。本年度は台湾、韓国、シンガポールから年間6校が来校して交流を行ったほか、1月には1年生全員が研修旅行でシンガポールを訪れ、現地校との交流やフィールドワークを行った。また、1月にはアメリカのフロリダ、3月にはカナダのケベックに代表生徒を派遣し、現地の高校・大学訪問のほか、環境問題などについてのフィールドワークを行う研修を実施した。



①「情報の科学」合同発表会



③SAGANO GLOBAL PRESENTATION



③アカデミックラボ課題研究発表会



④アメリカ・フロリダ研修

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

「情報の科学」や「アカデミックラボ」における探究活動では、それぞれのテーマに応じて必要な文献、ユネスコスクール・ESD・SDGsなどに関するウェブサイト、インターネット上の記事などを多数使用している。また海外交流や海外研修などに向けては、「京都市基本計画」などの各種都市計画、「森林・林業再生プラン」などの省庁発出文書、「循環型社会白書」など各種政府白書なども使用している。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

KGS I・II・IIIは、3年間で探究活動の基礎から発展的内容までを適切に学習できるよう、当該科目を教育課程上に計画的に位置付けている。1年次には「情報の科学」、総合的な学習の時間として「ロジカルサイエンス」、学校設定科目「グローバルインタラクション」を設置し、探究活動の基礎となるICTの活用方法や論理的思考力・表現力、英語によるコミュニケーション力などを養う。2年次には総合的な学習の時間として「アカデミックラボ」を設置し、1年間をかけて探究活動とその成果のポスター発表を行うことで、課題設定・解決力、表現力などを養う。3年次には学校設定科目「課題錬成」を設置し、2年次の探究活動の成果を論文化するとともに英語による発表及び質疑応答を行い、探究成果の深化を図る。アカデミックラボでは定期的に担当者会議を開き、指導方法や評価方法などについての共通理解や検証を行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

「アカデミックラボ」では、生徒の興味・関心に応じた幅広いテーマ設定に対応できるよう、全ての教科の教員が担当者に加わっている。そのため、年度初めには、必ず取組の目標、活動方針、具体的な活動方法などについての共通理解を図っているほか、年間を通じて定期的に担当者会議を開き、運営や評価方法などについて意見交換を行っている。また、課題発表会では1年生が2年生の発表を見学することにより次年度の活動への大きな刺激となっているほか、保護者や外部の方にも公開することで、学校全体の取組となるよう工夫をしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

生徒には活動内容や自己の取組などについて毎年アンケート調査を行っているほか、京都大学と連携した評価方法の研究も行っている。また、保護者に対しても学校の教育活動についてのアンケートを行っているほか、大学関係者、民間企業関係者、地元の有識者等に意見を求める会議を設定している。その結果によると、活動を通して自己の積極性やコミュニケーション能力が向上したと感じている生徒が多く、外部の方からも活動内容が年々充実してきているとの評価をいただいている。また、海外交流に参加した生徒は、多様な考え方に触れることで自己の視野が広がったり、貧困問題や環境問題など様々な社会問題についての思考が深まったりしたと実感している者が多く、国際社会での活躍を選択肢の一つと考えるようになったと答える者も見られた。一方課題としては、テーマにより探究内容の質に差が見られることや、評価方法の改善などが挙げられる。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

KGS I・II・IIIにおける様々な取組については、学校ホームページ上でタイムリーに情報を発信し、活動の様子や成果の発信に努めている。本年度は更新回数を昨年の約2倍に増やしたことで、アクセス件数も飛躍的に増加し、学校教育への理解が深まったと言える。また、海外研修に参加した生徒は、終了後に必ず全校生徒に対して研修成果の報告を行うほか、学校説明会などでも中学生やその保護者に研修内容の紹介を行っており、海外交流に対する学校全体の意識向上に大きく貢献している。さらに、本校の取組に対する他府県の高校からの視察希望が非常に多く、課題発表会なども含めて広く成果を発信していると考えている。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

「アカデミックラボ」では、そのテーマに応じて多くの外部機関に御協力をいただき研究の深化を図っている。本年度の主な連携先は、京都大学、大阪大学、京都教育大学、立命館大学、関西大学、京都学園大学、京都市立芸術大学、京都嵯峨芸術大学、京都弁護士事務所、日本政策金融公庫、嵐山保勝会などである。また、海外トップレベルの大学生などを招いて交流やフィールドワークを行う「HLAB 嵯峨野コラボレーションワークショップ」は、京都府教育委員会の支援も受け、グローバルネットワーク京都校（府立9校）にも参加を呼びかけて実施している。本年度は京都の持続可能な発展に関する共通の課題について、国際チームを編成してディスカッションやフィールドワーク・成果発表を行った。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

京都のユネスコスクール6校（嵯峨野高校、京田辺シュタイナー校、一燈園高校、平安女学院、京都外大西高校、紫野高校）のネットワーク「ユネスコASPnet 京都」を創設。本年度は第2回目となるユネスコスクール交流会を開催。「食から見える日本の姿」をテーマに、講演、ワークショップ、ポスター発表等を行い、ESDに関する各校の取組を共有して生徒の学びを深める一日となった。

(1) 日 時：平成29年11月5日（日）10:00-17:30

(2) 場 所：上賀茂神社（世界遺産）

(3) 参加者：ユネスコASPnet 京都校生徒（約50名）

※本校からはグローバル環境ラボ2チームの生徒6名が参加

(4) 内 容：

- ・留学生との交流プログラム
- ・日本料理アカデミー副理事長・栗栖正博氏講演「『もったいない』と和食」
- ・第8代ユネスコ事務局長・松浦晃一郎氏講話
- ・ワークショップ（テーマ「食から見える日本の姿」）
- ・ポスターセッション（各校の持続可能な発展教育の取組の交流） 等

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

KGS I・II・IIIで探究活動に取り組んできたことが学校全体の授業改善にも良い影響を与えており、当該科目以外においてもアクティブラーニングを意識した授業が増えてきている。また、継続的に取組を進めて来た中で、教員の意識や指導方法も向上し、年々課題探究や成果発表の質は充実してきていると言える。ラボ活動で取り組んだテーマにより進路選択の意識が変化したと答える卒業生もあり、持続可能な社会の担い手を育成するというESDの理念を、着実に実践できていると考えている。

（3）平成30年度の活動計画

「KGS I・II・III」の取組については、開始から4年目を迎える中で、内容が確実に定着・充実してきていると考えており、次年度も大枠については従来の形を踏襲しつつ、この間の課題を踏まえて細部について随時見直しや修正を行って行く予定である。新しい取組としては、「英語による課題研究発表会－SAGANO GLOBAL PRESENTATION－」にフロリダ研修で交流のあるジュピター高校の生徒を迎える方向で調整中である。また、ケベック研修については、現在の取組をさらに発展させ、森林と環境をテーマに現地の高校や大学と共同研究を行い、持続可能な社会を構築する視点を備えた科学分野における国際的リーダーシップを育成する計画を進めている。また、持続可能な社会の構築の観点からチャレンジすべき課題を発見して、ミニ政策提案（未来ビジョンとその実現のための具体策の提案）を行うための生徒用手引き（日本語版・英語版）の作成に着手する予定である。完成後は京都ユネスコス쿨のネットワーク校と共有し、各校の指導方法の改善に活かすほか、英語版を海外パートナー校との交流に活用し、海外交流プログラムの質を一層高めたいと考えている。